

ムーブ南畿2019年Vol.43



特集 スマート農業



撮影地: みかんの丘 (和歌山県有田郡有田川町)



目次

- 特集1 スマート農業 ----- 1
- 特集2 近畿『ディスカバー農山漁村(むら)の宝』 ----- 3
- 特集3 農業水利施設の管理(貴志川土地改良区) ----- 4
- トピックス PAWEES-INWEPF国際会議 奈良 2018 ----- 5
- トピックス 2019語り部交流会inわかやま ----- 5
- 事務所トピックス 台風20号時の大迫ダム対応 ----- 6
- 事務所トピックス 津風呂湖環境美化運動 ----- 6
- 事務所トピックス 国営施設応急対策事業「南紀用水地区」 ----- 7
- 事務所トピックス 出前授業を開催、事業概要・農業用ダムの役割をPR ----- 9

はじめに

2018未来投資戦略が平成30年6月15日、農林水産業全体にわたる改革とスマート農林水産業の実現のため、新たに構すべき具体的施策の農業改革の加速として、生産現場の強化(経営体の育成・確保、農地中間管理機構の機能強化等、米政策改革)、バリューチェーン全体での付加価値の向上(流通・加工の構造改革、生産資材改革の更なる推進、知的財産の戦略的推進)、データと先端技術のフル活用による世界トップレベルの「スマート農業」の実現(データ共有の基盤整備、先端技術の実装、スマート化を推進する経営者の育成・強化)が閣議決定されています。本誌では、スマート農業について紹介します。

また、貴志川土地改良区の中西政秀さんから農業水利施設を管理するうえでのご苦労についてお話を伺いました。

写真:みかん畑(和歌山県有田郡有田川町大谷)

表紙:みかんの丘(和歌山県有田郡有田川町大谷)

温州みかん(地域団体商標登録:有田みかん)の一大産地である有田川町にある展望台で、ここからの有田川町が眼下に広がっています。

特集1 スマート農業

(1)スマート農業とは

スマート農業とは、「**先端技術**」×「**農業技術**」で、ロボット技術やICT等の先端技術を活用し、超省力化や高品質生産等を可能にする新たな農業であり、近年、農業関係者だけでなく他産業関係者や消費者の注目を集めています。

(2)農業をめぐる状況

農業者の減少と高齢化の進行が水路等の農業生産基盤の維持を困難にし、耕作放棄地の拡大が進む要因の一つとなっています。また、熟練農業者の経験と勘に基づく農業生産技術が喪失してしまう危機を迎えています。

- ①引退する高齢農業者が増えることに伴い、土地持ち非農家が年々増加しており、農地の継承がうまくいかずに、耕作放棄地となってしまう。
- ②農業用水路、農道、ため池等の農業生産基盤は、地域の重要な産業である農業を維持し、様々な多面的機能の発揮に役立ってきましたが、農業生産基盤の維持に中心的な役割を果たしてきた農業者の減少により、その維持は困難となり、農村地域の活力がそがれることにつながっています。
- ③多様な気候や土壌をもち、その特性に応じた様々な農業が行われてきましたが、これまで各地域の熟練した農業者の持つ経験や勘が重要な役割を果たしてきました。熟練農業者の持つ経験や勘は「暗黙知」であるがゆえに、次代の農業者に引き継がれなければ失われてしまう性質のものとなっています。

(3)農政改革の推進

先に述べた農業者の減少・高齢化に基づく課題等、農林水産業・農山漁村を取り巻く状況を克服し、「強い農林水産業」と「美しく活力ある農山漁村」を創り上げるため、「農林水産業・地域の活力創造プラン」を策定し、これに基づき農地中間管理機構の創設や経営所得安定対策の見直しなど、一連の農政改革に着手しました。これにより、担い手の農地の集積の進行、新規就農者・法人経営体が増加したことから、農業生産活動において、作業の効率化・低コスト化・標準化、有効な最新技術の導入等の一層の推進が求められています。

(4)スマート農業の位置付け

このような農業をめぐる状況を踏まえ、従来からの農業技術と連携することで、更なる生産の効率化や農産物の高付加価値化を目指すものであり、農林水産業・地域の活力創造プランでは、「異業種連携による他業種に蓄積された技術・知見の活用、ロボット技術やICTを活用したスマート農業の推進、新たな品種や技術の開発・普及、知的財産の総合的な活用、生産・流通システムの高度化等により、農業にイノベーションを起こす」としています。例えば、AI (Agri-Infomatics) 農業や精密農業といった新たな農業手法やネットワーク、情報端末、クラウドコンピューティング、リモートセンシング、ロボット等の他の分野とも共通する汎用的なハードウェア・ソフトウェア技術を活用しています。

(5)スマート農業の将来像

1 超省力・大規模生産を実現
GPS自動走行システム等の導入による農業機械の夜間走行・複数走行・自動走行等で、作業能力の限界を打破

2 作物の能力を最大限に発揮
センシング技術や過去のデータに基づくきめ細やかな栽培により(精密農業)、作物のポテンシャルを最大限に引き出し多収・高品質を実現

3 きつい作業、危険な作業から解放
収穫物の積み下ろしなどの重労働をアシストスーツで軽労化するほか、除草ロボットなどにより作業を自動化

4 誰もが取り組みやすい農業を実現
農業機械のアシスト装置により経験の浅いオペレーターでも高精度の作業が可能となるほか、ノウハウをデータ化することで若者等が農業に続々とトライ

5 消費者・実需者に安心と信頼を提供
クラウドシステムにより、生産の詳しい情報を実需者や消費者にダイレクトにつなげ、安心と信頼を届ける

スマート農業
ICT、ロボット技術を活用して、超省力・高品質生産を実現する新たな農業

(6)スマート農業の実現に向けた様々な取組

○ 人口知能(AI)やIoT、ロボット技術の活用により、生産性の飛躍的な向上などのイノベーションを推進するため、優先的に取り組むべき課題の特定、研究開発や実証、新技術を普及させるための支援や環境づくりなどを推進

将来像や優先に取り組むべき課題の特定	○ スマート農業の実現に向けた研究会(平成25年11月設置)での将来像や、重点的に取り組む課題の検討	<p>1 超省力・大規模生産を実現 2 作物の能力を最大限に発揮 3 きつい作業、危険な作業から解放 4 誰もが取り組みやすい農業を実現 5 消費者・実需者に安心と信頼を提供</p>
新技術の開発、実証	○ コストなど明確な開発目標の下で現場実装まで視野に入れた技術開発 ○ 人工知能等による新たなイノベーション創出 ○ 内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)での各省連携した技術開発	<p>自動走行トラクター 導入しやすい価格の水田センサー AIを活用した画像解析による病害虫診断</p>
新技術の普及、導入支援	○ ICTやロボット技術等先端技術の導入支援 ○ 新技術導入効果・活用事例の情報発信	<p>GPS自動操縦トラクター 土壌センサー搭載型可変施肥田植機 ドローンによる病害虫防除</p>
先進技術が導入できる環境づくり	○ 農業分野におけるデータ活用促進を図るためのデータの標準化 ○ 自動走行トラクターの現場実装に向けた安全確保のルール作り ○ ベンチャー企業、先進的な人工知能等の研究者など様々な分野の方の技術開発参画	<p>データ標準化 安全性確保のルールづくり</p>

(7)スマート農業技術の現状

	研究開発	実証	市販化	普及	主な取組状況
施設環境計測・制御システム 〔施設内の各種データを計測し、自動的に環境を制御〕	→	→	→	→	○ 国内の複数の企業より、既に製品販売がなされており、1,000件以上の導入実績がある製品も存在。 ○ 温度、湿度、土壌水分、CO2濃度、ECなどを計測し、クラウドに自動蓄積し、経営管理ソフトと連動することで、データに基づいた経営管理を可能とする。
露地向けセンサーシステム 〔露地の各種環境データを計測し、クラウドに自動蓄積〕	→	→	→	→	○ 一部、販売段階に入っている製品もあるが、屋外での使用が中心となるため、データ取得や耐久性に課題があり、実証段階のものも多く存在。 ○ 水田の水管理センサーを用いた自動水管理システムは特にニーズが高く、農研機構でも研究開発がなされている他、複数の企業から製品が販売。
ドローン 〔農業散布やカメラの搭載によるセンシングに活用〕	→	→	→	→	○ 無人ヘリコプターよりも操作が楽で安価であることから、近年農業散布をメインに普及(2017年8,300ha(速報値))。自動操縦飛行も実証段階にある。 ○ マルチスペクトルカメラによる、植物の生理解析を行う用途にも使用されており、水稲の葉色による生育診断サービスは事業化済み(2018年3,000ha)。
アシストスーツ 〔モーター等により腕や腰部への負担を軽減〕	→	→	→	→	○ 主に工場や介護業などにおける使用をメインに普及がなされているが、農業用としても市販化されている製品がある。 ○ 果樹の摘果など長時間の腕上げ作業の負担を軽減する製品、重量物の持ち上げや運搬など腰部の負担を軽減する製品が販売。
無人トラクター 〔ロボット技術により無人でも正確に走行できるトラクター〕	→	→	→	→	○ 平地の大規模ほ場向けの有人-無人協調システム(1人で2台をコントロール)を利用できるモデルは、2017年より試験販売が開始。 ○ 一方で、小規模ほ場や中山間地向けの小型モデルや、より多くの台数を1人でコントロール可能な技術は研究開発段階にある。
除草ロボット(畦畔) 〔自走するロボット型除草機〕	→	→	→	→	○ 小型エンジンを搭載したりリモコン操作式モデルは製品化済み。一方、自動走行モデルは、国の事業を活用し、複数の企業において実証中。 ○ 水田の畦幅が地域によって異なることや、傾斜地への対応が難しいことから、農業専門モデルとしての確立はもう少し時間を要するところ。
運搬ロボット 〔作業者を自動追尾し、重量物を運搬するロボット〕	→	→	→	→	○ 国内複数の企業において、プロトタイプが開発されており、農業者によるモニター利用が行われ、市販化への改良が進められている。 ○ この他、自動収穫機に追従する搬出用無人運搬台車も国の事業で研究開発されている。
技術継承システム 〔篤農家の技術をウェアラブルデバイスなどで見える化〕	→	→	→	→	○ 篤農家のノウハウを記録、データ化、見える化し新規就農者等に継承するシステムについては、17府県10品目で開発。 ○ ウェアラブルデバイスを用いたサービスについては、高コストであり、今後は全国的に普及することにより、コスト低減を目指す必要。
施設トマト収穫ロボット 〔ロボットアームとカメラによる識別機能を搭載したロボット〕	→	→	→	→	○ 国内大手企業を中心に、施設トマトなどをターゲットに、研究開発が進められているところ。 ○ 現在は大規模施設への導入を念頭に開発。今後は将来の普及ターゲット(規模、品目など)を広げていくための検討が必要。

問い合わせ先: 近畿農政局生産部生産技術環境課 TEL:075-451-9161(内線2314、2318)
スマート農業 <http://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/index.html>

特集2 近畿『ディスカバー農山漁村(むら)の宝』

内閣官房及び農林水産省は、平成26年度から「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより、地域の活性化や所得向上に取り組んでいる優良な事例を『ディスカバー農山漁村(むら)の宝』として選定し、全国へ発信しています。

近畿農政局においても、平成29年度から近畿管内(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)より応募のあった事例の中から、近畿独自の特徴ある優れた取り組みについて、『近畿「ディスカバー農山漁村(むら)の宝』として選定し、その情報を近畿農政局ホームページにおいて発信しています。

当事務所管内の近畿『ディスカバー農山漁村(むら)の宝』第2回(平成30年度)の選定地区を紹介します。

飛鳥ニューツーリズム協議会 (奈良県高市郡明日香村)

～ 飛鳥から世界へ！日本文化を発信 ～ (農泊、訪日外国人旅行者の誘致、食育・教育)

概要

成果

地域の秋祭りに参加する高校生



郷土料理作りにチャレンジ



- インバウンド個人旅行客をメインターゲットとして、古民家リノベーションゲストハウス、古民家一棟貸宿、農家民宿と地域住民による体験プログラム(いちご狩り体験等)を提供。
- ホームステイ型民泊によるインバウンド教育旅行及び研修団体の受入。
- 農業体験・郷土料理作り体験を実施し、日本の「食」について深く学ぶことが出来る機会を提供。

- ホームステイ型インバウンド受入泊数は、522泊から3,257泊に増加。(H25～H29)
- ホームステイ型国内教育旅行受入団体数は、13団体から60団体に増加。(H25～H29)
- 付加価値の高い商品として宿泊事業を推進してきたことにより、地域住民及び農業者の所得向上に貢献。
- 受入家庭は、明日香村にとどまらず、周辺市町村にも拡大。

熊野米プロジェクト (和歌山県田辺市)

～ 米作り・人づくり・町づくり ～ (6次産業化、輸出、企業・地域住民・大学との連携)

概要

成果

熊野米100%の日本酒「交」



台湾のスーパーへ出店



熊野米甘酒をPR



- 熊野米を活用した6次産業化を進め、熊野米の缶詰パンや熊野米甘酒を商品化。熊野米で作った日本酒『交』も高評価。
- 本格的に農業参入し農地中間管理機構より5haの農地を借り受け、積極的に耕作放棄地を解消。
- 世界を視野に商談会にも参加し、日本政策金融公庫のトライアル事業により、台湾にも米の輸出を開始。

- 熊野米作付面積を、1haから17haに拡大。(H25～H29)
- 農地中間管理機構からの借入面積を50aから500aに拡大。(H26～H29)
- 熊野米を使用した「熊野米パン」を、大手通販をはじめ地域の防災備蓄用として販路拡大。
- 熊野米が地域ブランドとして認められたことから、水田の保全、農家の生産意欲向上や後継者確保へも寄与。

※熊野米は、「ヒカリ新世紀」という品種です。

近畿「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」 <http://www.maff.go.jp/kinki/keikaku/nousonshinkou/kasseika/dis2.html>
問い合わせ先:近畿農政局農村振興部農村計画課 TEL:075-451-9161(内線2415、2423)
【参考】ディスカバー農山漁村(むら)の宝 <https://www.discovermuranotakara.go.jp>

特集3 農業水利施設の管理

今回は、貴志川(和歌山県紀の川市)両岸に位置する167haの農地に農業用水を供給する貴志川土地改良区(以下「改良区」という)の中西政秀 事務局長にお話を伺いました。

改良区が管理する施設は、貴志川の両岸に水路を設けて灌漑します。『紀伊続風土記』では、東西両岸に石を積んで用水を堰き、中央を開いて水を通すとあり、江戸時代末期の治水技術の高さをうかがわせます。

昭和32年に支流の野田原川に山田ダムが完成し、貴志川下流域を潤す重要な農業用水の水源となりました。

近年では、国営農業用水再編対策事業大和紀伊平野地区で水路の整備が行われました。



【貴志川土地改良区 中西 政秀さんへのインタビュー】

中西さんのある一日

8:45 出勤

8:45 用水路の巡視

取水量等の変化を確認し、用水路及び樋門の巡視を行います。

12:00 昼休み

13:00 諸対応など

農家からの問い合わせ(苦情)への対応や事務処理も行います。

17:15 退庁

突然の降雨等、かんがい期を中心に緊急の対応が必要な場合があるため、退庁後も天気予報の確認は欠かせません。

貴志川土地改良区
中西 政秀 事務局長



紀の川市出身。平成2年に、改良区に就職。

施設の管理・維持から事務作業を日々頑張っています。

～貴志川土地改良区の業務～

改良区は、貴志川に築造された諸井頭首工(和歌山県紀の川市)、延長約10kmの幹線用水路、延長約10kmの排水路、及び水路に設けられた30箇所の樋門を管理しています。



諸井頭首工

～日常、特に気をつけていること～

諸井頭首工の両岸にある取水口から必要量を取水していますが、水路の勾配が緩いため、堰板で調整し水位を確保しています。このため、どうしても上流で先取りされて、下流で用水が不足する事態が生じるため、用水路の巡視時には、特に気をつけています。併せて役員さんにも見廻りをしてもらっており、ゴミの撤去等、維持管理も行ってもらっています。



右岸取水口ゲート



幹線用水路



左岸取水口ゲート

～施設の維持管理で課題と感じていること～

水路では、多くのゴミが溜まり、管理上の問題になっています。

ゴミの除去には、多大の労力を必要とするため、地域住民(農家・非農家)による定期的なゴミ除去作業を行っています。



トピックス PAWEES-INWEPF国際会議 奈良 2018

平成30年11月20日(火)から22日(木)にかけて、国際水田・水環境工学会(通称:PAWEES)と国際水田・水環境ネットワーク(通称:INWEPF)は、奈良県の協力を得て、奈良春日野国際フォーラム 麓～I・RA・KA～において「PAWEES-INWEPF国際会議 奈良 2018」を開催しました。

本国際会議には、21の国・地域と4つの関係国際機関から552名が参加し、水田農業における水利用や水管理、水環境等について議論が行われました。

会議初日の20日は、荒井正吾奈良県知事とProf.Jin-Soo Kim PAWEES会長、太田豊彦農村振興局次長のウエルカムスピーチに続いて、荳林幹太郎学習院女子大学副学長の基調講演が行われ、その後、PAWEES授賞式、世界かんがい施設遺産登録証伝達式、午後からは、合同のシンポジウムと、それぞれのセッションが行われました。

翌21日は、それぞれのセッションに加え、ICID-PAWEES-INWEPF連携ワークショップでは、「SDGs(持続可能な開発目標)に向けたアジアのかんがい排水」をテーマにディスカッションが行われ、最後に、ラップアップミーティングにおいて、2日間にわたる議論の総括が行われた後、「PAWEES-INWEPF奈良共同ステートメント」が採択されました。

最終日の22日には、白川ため池や下淵頭首工等の土地改良施設の現地視察が行われ、下淵頭首工において、南近畿土地改良調査管理事務所職員から、当施設の説明に加え、十津川紀の川地区の概要、直轄管理施設の大迫ダム及び津風呂ダムの紹介、用水補給の調整、洪水時の状況等について説明を行いました。



事業概要説明



下淵頭首工説明



現地見学(下淵頭首工)

トピックス 2019語り部交流会inわかやま

平成31年1月24日(木)、紀南文化会館(和歌山県田辺市)において、「2019語り部交流会inわかやま『～地域の『絆』が育んだ持続的農業～』」が約300人の聴講により開催され、内山りゆう氏(ネイチャー・フォトグラファー)による「梅が醸し出す美しい風景」と題した講演、平野啓子氏(語り部・かたりすと)による「梅と日本人の関わり」と題した語りが行われました。

その後、コーディネーターを平野啓子氏とした語りフォーラム「地域の『絆』とひらかれた農村」が行われ、パネラーの内山りゆう氏、石神忠夫氏(紀州田辺観梅協会会長、みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会委員)、松川嘉之氏(南紀用水土地改良区理事長)、二葉美智子氏(受領梅遊びグループ)、横井績氏(農林水産省農村振興局整備部長)から、地域の『絆』をキーワードに梅にまつわる歴史・文化、みなべ・田辺地域のこれからについて、以下が語られました。

- 内山氏: 地域の魅力の発信として、「隠れた魅力があるので、外部の人の意見を聞いて発掘してみては。」
- 石神氏: 今後の目標として、「収入の確保、農業の伝達、複数回の来場者を増やす。」
- 松川氏: 今後の方針として、「現在、応急対策事業を実施中であり、今後は、南紀用水二期事業を計画している。」
- 二葉氏: 今後の取り組みとして、「外の力を借りながら、海外への発信や梅料理を病院食として取り上げてもらえる活動をしたい。」
- 横井氏: 果樹農業の未来として、「同じ産地や分野が連携し需要を高めるとともに、ニーズに合った果実の生産や生産基盤の強化が必要。」

最後に、平野氏から「日本の農業は心で育んできた。知恵を継承し、この地域では梅が日本一になった。日本でも絆が失われつつあるが、この地域では残っている。今後も守り続けられることを願う。」と期待を込め締めくくられました。



語りフォーラム「地域の『絆』とひらかれた農村」



語りフォーラムパネラー



語りフォーラムコーディネーター・パネラー

事務所トピックス 台風20号時の大迫ダム対応

平成30年度は、梅雨前線の通過・台風20号・21号・24号の影響により、大迫ダムでは4回の洪水放流を行いました。その中でも、強い勢力を保ったまま平成30年8月23日に徳島県南部に上陸後、兵庫県姫路市に再上陸して、各地に甚大な被害をもたらした台風20号時の大迫ダムの対応を紹介します。

なお、その後も台風21号、24号が相次いで日本に上陸しました。

1. 洪水の概要

大迫ダム流域では、降り始め(8月22日)からの総雨量は622mmに達しました。この台風20号の降雨により、西日本を中心に大きな被害がでました。

降雨期間	総雨量	最大日雨量	最大流入量	最大放流量
8/22～8/25	622 mm	529 mm	1,249 m ³ /s	1,246 m ³ /s

2. 大迫ダムでの対応

大迫ダムでは、8月23日9時30分からの洪水放流にそなえ以下の対応を実施し、無事に洪水時の対応を終えることができました。

- 1) 洪水放流決定 8月23日 7時00分
- 2) 警報活動開始 8月23日 8時30分
- 3) 洪水放流開始 8月23日 9時30分
- 4) 警報活動終了 8月23日 11時00分
- 5) 最大流入量発生 8月24日 1時10分
- 6) 洪水放流終了 8月25日 8時00分



大迫ダム放流状況 8月23日

週末の放流は、1度しかありませんでしたが、台風シーズンは毎週末に「待機」となりました。なお、警報活動要員の方々も「警報活動待機」してもらい、事務所として洪水対応を行いました。

事務所トピックス 津風呂湖環境美化運動

平成30年11月23日(金・祝)に津風呂ダムにおいて、今年度で9回目になる「津風呂湖環境美化運動」を実施しました。

津風呂湖環境美化運動は、国・県・町・土地改良区・地元等で構成される津風呂ダム環境保全対策協議会が主催し、その構成メンバーである津風呂湖自然を守る会と津風呂ダム管理所が事務局を努めて実施しています。

今年度も、総勢99名がボランティアとして参加し、各々が流木、ゴミ類の除去作業を行いました。

今後も、美しい津風呂湖を未来へ継承するため、定期的な清掃活動を実施したいと考えています。

津風呂湖自然を守る会挨拶



清掃活動



清掃活動



流木集積



収集ゴミ



事務所トックス3 国営施設応急対策事業「南紀用水地区」

国営施設応急対策事業「南紀用水地区」の事業工期は、平成28～31年度の4か年の予定であり、1年目の平成28年度は東本庄揚水機場と辺川頭首工に係る実施設計業務を行い、2年目の平成29年度は水管理施設に係る実施設計業務を行うとともに、東本庄揚水機場に係る工事に着手しました。事業着手から3年目にあたり、事業対象の3施設全ての改修工事に着手していますので、その内容を紹介いたします。

辺川頭首工

土砂吐ゲート上下流エプロン補修、護床ブロック設置、土砂吐ゲート(塗替塗装、水密ゴム取替、油圧シリンダ分解整備、機側操作盤更新)



土砂吐ゲート上流エプロン



土砂吐ゲート



機側操作盤

事業概要図

○事業の目的
本地区は、和歌山県のほぼ中央部に位置し、田辺市及び日高郡みなべ町にまたがる二級河川南部川沿いに形成された1,552haの樹園地帯です。
本地区の農業水利施設は、国営南紀用水土地改良事業(S48年度～H7年度)により樹園地(うめ、かんきつ等)のかんがい施設整備を行い、干ばつ被害の防止、施設の多目的使用による防除作業の省力化等で合理的な営農経営が図られてきました。
しかし、揚水機場においては、ポンプの故障等による送水停止が発生し、農業用水の安定供給に支障をきたすとともに、施設の維持管理に多大な費用と労力を要しているほか、頭首工等においては固定堰の摩耗等による機能低下が生じています。
このため、本事業では、これらの施設の機能を保全するための整備を行うことにより、農業用水の安定供給及び施設の維持管理の費用と労力の軽減を図り、農業生産性の維持及び農業経営の安定に資するものです。

○事業の内容
関係市町 和歌山県田辺市、日高郡みなべ町
事業工期 平成28～31年度(予定)
受益面積 1,552 ha
主要工事 東本庄揚水機場(改修) 1ヶ所
辺川頭首工(改修) 1ヶ所
水管理施設(改修) 1式
総事業費 6.5億円



中央管理所(水管理施設)

遠方監視装置の改修

水管理施設

親局(中央管理所)、子局(揚水機場:3ヶ所)、孫局(ファームポンド:6ヶ所)の情報処理設備・監視操作設備・情報伝送設備・電源設備・計装設備・その他付帯設備の更新



遠方監視装置

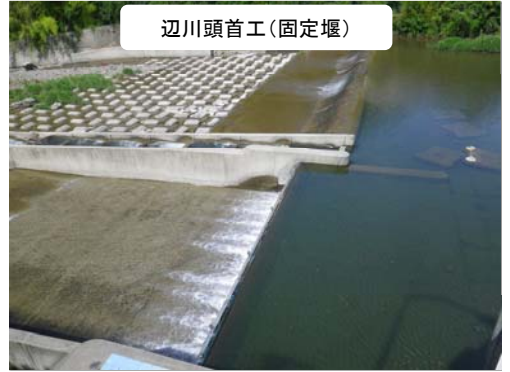


子局設備



孫局(ファームポンド)

本事業は、平成31年度の事業完了を目指しており、来年度は引き続き辺川頭首工の右岸側(固定堰改修、ゲート開閉装置)工事と水管理施設1系統(子局:1ヶ所、孫局:1ヶ所)の更新工事を行うこととしています。



辺川頭首工(固定堰)



子局設備



孫局(ファームポンド)

東本庄揚水機場

1号揚水機場(ポンプ設備更新、電気設備更新、補助機械更新)、2号揚水機場(電気設備更新)、建屋の浸水対策、屋根塗装、外壁塗装



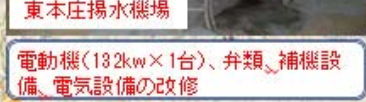
1号揚水機場



2号揚水機場



揚水機場建屋



東本庄揚水機場

電動機(132kw×1台)、弁類、補機設備、電気設備の改修

事務所トピックス 出前授業を開催

奈良県大和高田市立陵西小学校において、平成30年9月10日(月)、4年生64名を対象として、当事務所と大和平野土地改良区の合同により、「吉野川分水ってなんだろう?」、「田んぼには、どんな生きものがいるでしょうか?」、「私たちの食べ物について考えてみよう!」、「吉野川分水について」の内容の出前授業を行いました。

当事務所は、吉野川分水の歴史や水管理・点検・修理、クイズ方式での田んぼの生きもの及び当日の給食の自給率を、大和平野土地改良区が吉野川分水についての授業を行いました。当日は、近隣の分水施設も見学する予定でしたが、あいにくの雨のため、室内のみでの授業となりましたが、参加した小学生達は、真剣に授業を聞き積極的にクイズに答えていました。

吉野川分水ってなんだろう?



田んぼには、どんな生きものがいるでしょうか?



クイズ形式での説明



事務所トピックス 事業概要・農業用ダムの役割をPR

平成30年11月23日(金・祝)、葛城山麓ウォーク(後援協力:農林水産省近畿農政局)が屋敷山公園(奈良県葛城市)において、山麓ウォーク(約10km)・葛城山麓わくわく市が参加者約550人で盛大に開催され、当事務所は、「十津川紀の川総合開発事業の概要」・「農業用ダムの役割」、近畿農政局奈良支局は、「スマート農業」・「収入保険」・「食料自給率」のパネルを展示し、参加者にPRしました。

また、大和平野土地改良区も吉野川分水などのパネルを展示し、参加者にPRしました。

葛城山麓ウォークは、地域農業の活性化と地域間相互の豊かで潤いのある生活を目指すため、地域の7地区が葛城山麓地域協議会(愛称:カツラギ・セブン)を設立し、平成26年より催しているイベントです。

事業概要



農業用ダムの役割



近畿農政局奈良支局のパネル展示



ムーブ南畿

第43号 平成31年3月



日本の農業、もっと強く。

農業競争力強化プログラム



近畿農政局

南近畿土地改良調査管理事務所

〒638-0821 奈良県吉野郡大淀町下淵388-1

TEL 0747(52)2791 FAX 0747(52)2794

URL:<http://www.maff.go.jp/kinki/seibi/sekei/kokuei/minami-kinki/>

大迫ダム管理所

〒639-3603 奈良県吉野郡川上村北和田長屋峯615-5

TEL 0746(54)0800 FAX 0746(54)0306

津風呂ダム管理所

〒639-3102 奈良県吉野郡吉野町河原屋849-5

TEL 0746(32)2335 FAX 0746(32)0836

南紀用水支所

〒646-0024 和歌山県田辺市学園27-23

TEL 0739(22)1123 FAX 0739(22)1107